

(社)北海道建築士会 北見支部  
道外研修事業 報告書



日 時 : 平成24年3月3日(土)～平成24年3月4日(日)  
場 所 : 東京スカイツリー見学他  
参加者 : 米倉直子、安原英司、串橋誠司、片平佳奈、柴田直樹、  
野嶋裕司、山田郁夫、高橋雅敏、越田菜月、野澤正男、  
寺山勝己、笹木勇一、赤堀健太、山口浩行(報告者)



(社)北海道建築士会 北見支部

1日目～ 3月3日（土曜日）

14：30～15：30

東京スカイツリー見学、東京スカイツリーインフォメーションプラザ見学及び周辺施設見学



押上駅周辺から京成橋を経て北十間川沿いを散策し業平橋の東京インフォメーションプラザにかけて見学をした。東京スカイツリー周辺の再開発事業も盛んに行われていました。押上駅を出ると東京スカイツリーの東側に出ます。スカイツリー横には東京スカイツリーイーストタワーがあり、こちらは高さ 158m31階建てです。スカイツリーが 634mもあるのであまり高く感じませんでした。東京スカイツリーは北十間川側（南側）から見ると根元部分が商業施設に隠れているため、はっきりとは確認できませんでしたが、根元部分の三角形の形状と展望台に向かって円形になっていく様子がわかりました。又、展望台内部に柱から伸びていく柱が見えました。

インフォメーションプラザには、建設様子のパネル、技術資料のパネル、東京スカイツリー周辺の模型などが展示されていてとても参考になりました。東京スカイツリーが 634mになった理由があり世界一高い自立式鉄塔であることと武蔵にかけているとありました。地盤調査や基礎構造、柱が三角形の理由など掲示してありました。

16：30～18：00

江戸東京博物館見学「ザ・タワー～都市と塔のものがたり～」



江戸東京博物館では、東京スカイツリーの開業に合わせて「ザ・タワー～都市と塔のものがたり～」を開催していました。19世紀末から20世紀にかけてのパリ、東京、大阪の3都市にある塔を中心に都市と塔の関係について貴重な資料が紹介されていました。江戸東京博物館所蔵資料とオルセー美術館をはじめとするフランス国内の貴重なエッフェル塔関連資料などにも興味がわきました。

また、大阪で開催された日本万国博覧会のテーマ館のシンボルとしてあった太陽の塔の直径11mの黄金の顔常設展示室内に展示しました。

常設展示室は、「江戸ゾーン」「東京ゾーン」「第2企画展示室」で構成されていて、浮世絵や絵巻、着物、古地図など約2,500点、大型模型など約50点あまりが展示されています。5階と6階が吹き抜けになっていて実物大に復元した大型模型などが展示されていました。また、当時の人びとが、実際に使っていた実物資料も豊富に展示しており、江戸東京の都市と文化、そこに暮らす人びとの生活を楽しみながら学ぶことができます。特に江戸ゾーンには町屋の模型や武家屋敷の模型がありかなり精密にできていてとても感動しました。今後の活動にとっても参考になりました。

20:30~21:00

浅草寺周辺散策



浅草寺では、江戸開府400年記念事業として本堂・五重塔・宝蔵門・雷門のライトアップされています。ライトアップのデザインを手がけたのは、東京タワーやレインボーブリッジも担当した石井幹子氏です。

まるで江戸時代にタイムスリップしたように感じられ、夜の浅草は観光客もまばらでとても歩きやすいです。その分日中はすごい人ごみです。

仲見世通りは閉店していましたが、逆に趣きがあってとてもよかったです。ゆっくり見学することが出来ました。

2日目～ 3月4日（日曜日）

10:00~12:00 浅草寺、雷門、浅草神社 及び周辺施設見学



雷門から宝蔵門、仲見世通りを抜け、浅草寺、浅草神社、五重の塔、二天門を見学しました。

雷門は入口の門。切妻造の八脚門で向かって右の間に風神像、左の間に雷神像を安置することから正式には風雷神門というのが雷門の通称で通っている。雷門から宝蔵門に至る表参道の両側にはみやげ物、菓子など

を売る商店が立ち並び、仲見世と呼ばれている。商店は東側に 54 店、西側に 35 店がありました。宝蔵門は入母屋造の二重門になっています。門の左右に金剛力士（仁王）像を安置していてかつては「仁王門」と呼ばれていました。昭和の再建後は宝蔵門となり 2 階部分は文化財の収蔵庫となっています。2 体の金剛力士像は、向かって左（西）の阿形（あぎょう）、右（東）の吽形（うんぎょう）門の背面左右には、魔除けの意味をもつ巨大なわらじが吊り下げられている。これは、山形県人会の奉賛会により製作奉納されています。

本尊の聖観音像を安置するため観音堂とも呼ばれています。勘違いされがちですが浅草寺はお寺です。神社は別にあります。旧堂は慶安 2 年（1649 年）の再建で近世の大型寺院本堂の代表作として国宝（当時）に指定されていたが、昭和 20 年（1945 年）の東京大空襲で焼失した。現在の堂は昭和 33 年（1958 年）に再建されたもので鉄筋コンクリート造です。内陣中央には本尊を安置する間口 4.5 メートル、高さ 6 メートルの宮殿（くうでん、「厨子」と同義）があり、宮殿内部は前の間と奥の間に分かれ、奥の間に秘仏本尊、前の間には「お前立ち」の観音像が安置されています。2009 年 2 月から 2010 年 12 月にかけて、「平成本堂大営繕」が行われた。屋根の葺き替えは昭和 33 年（1958 年）の再建以来 50 年ぶり。宝蔵門の改修工事でも用いたチタン成型瓦を採用しているそうです。

#### 11 : 00~12 : 30 東京ゲートブリッジクルーズ



天王洲にある栈橋からご乗船し、東京モノレールと平行する京浜運河を抜けて、飛行機が行きかう羽田空港沖まで進み、迫力の飛行機をみました。東京西航路を横断した後は、中央防波堤の間の海の森を通り抜けながら、東京ゲートブリッジの橋脚脇から真下まで行きました。ゲートブリッジ見学した後は、お台場の観覧車を見上げ、レインボーブリッジをくぐってきました。

#### 13 : 00~14 : 30 東京国立博物館 法隆寺宝物館見学



上野恩師公園にはたくさんの施設があり、何を見学するかとても迷いました。時間の都合上2カ所が限界と判断し、最初は法隆寺宝物館に行きました。残念ながら内部は撮影できませんでしたが、仏像や書物など貴重な国宝や重要文化財がたくさん展示してありました。なかなか見るチャンスはないと思うので少ない時間でしたが、ゆっくりと見学できました。

東京国立博物館本館はJ. コンドルが設計し、明治15年に開館した旧本館は大正12年に関東大震災で大きな被害を受けましたがその後、昭和13年に昭和天皇の即位を記念して開館しました。渡辺仁による設計で、鉄筋コンクリート建築に瓦屋根をのせ、東洋風を強く打ち出し、「帝冠様式」の代表的建築とされています。平成13年に重要文化財に指定されました。内部の展示は非常に多く限られた時間ですべて見ることは難しかったです。全ての施設を見学するには2日以上かかるのではないかと思います。またぜひ行きたいと思いました。

#### 15:00~16:00 東京駅見学

東京駅地下の商業施設内を見学しました。エキナカとして50店舗ありとても多くの人で賑わっていました。

#### 総評

今回の道外研修として、東京にある最新の建物である東京スカイツリーや東京ゲートブリッジを視察、合わせて歴史的建造物や重要文化財なども見学した。準備期間のない中で会員の協力のもと準備や工程を組んだ。また1泊2日の視察時間しか取れなかったため、会員の希望するところが十分に視察ができなかったと思う。しかしながら各所の視察見学では、時間を有意義に使い十分に意義のあった視察であったと思う。インターネットで十分に情報が得られる中、実際に行き目で見て肌で感じることの大切さや北見にはない建物建造物や歴史的に価値のあるものを体験し、今後の建築士会活動に生かせると感じた。時間的制限があり、余裕はなかったが十分に満足いく内容だったと思う。今後、道外視察の機会があれば、もっとゆっくり見学・視察が出来るように計画したいと考えます。